

留学体験レポート

先輩たちの体験談集

受験生のみなさんはそれぞれに大学に入ってからこんなことしてみたいという願望や、また何ができるのかという疑問を抱いているかだと思います。本学科では留学という一つの選択肢が用意されています。留学といっても行き先によって事情が異なります。そこで、留学について少しでも具体的なイメージをもってもらえるように、みなさんの先輩となる人たちの留学体験談を紹介します。

語学のためだけではない留学

私は、イングランドの北に位置するヨークという街にある、ヨーク・セントジョン大学に留学をしました。ヨークは自然と歴史を感じることができる、魅力があふれている場所です。
私はこの留学を通して、国籍・年齢・育った環境が全く異なる新しい人と出会い、そのおかげでより柔軟に物事を考えられるようになりました。留学中にできた私の友達はみな、自分で学費を稼ぎ大学に入学しているため、多数が年上でした。それぞれが自分のやり方で楽しんで学んでいる姿を見て、何事も自分のやり方で、自分のペースでいいのだと思えるようになりました。また、留学中は日本に居る家族や友達だけでなく、現地の友達存在に助けられました。初めはネイティブの英語のスピードについていけず、何度も聞き返すことばかりで悔しい思いをたくさんしましたが、友達がみな私の気持ちを理解してくれて優しく教えてくれたおかげで、たとえ辛くても逃げることなく英語に向き合えました。この経験を活かし、自分らしさと目の前にいる人への感謝を忘れず何事にも挑戦したいと思います。

上野 円佳 さん ● 4回生 ● 交換留学

遠くは近く、近くは遠く

アウクスブルク大学で過ごした1年間は、これまでの人生で最も新しいものに出会えた期間となりました。海外での大学生活という未知の経験を前にして不安もありましたが、それを実現するために勉強を続けました。留学前には大事なのは語学力やコミュニケーション能力だと考えていましたが、実際に行って使ったのは私がこれまで学んできたほぼすべての知識でした。友人とは料理を一緒にしたり、アニメや漫画の話で盛り上がり、時にはスポーツ観戦なども心を通わせていきました。どれほど遠くに住んでいても人間同土根底にあるものは同じなんだと経験することができました。語学力だけではなく、好きなものや自分の意見など内面を見ることが大切であることにも気づきました。その一方で隣国なのに考え方が全く異なるという体験もしました。その違いを知るために15以上の国に25,000km以上もの道のりを1人で旅行し、現地の人と話をしました。自分の意思で、足で、目で世界の一端を直接知るといった経験は刺激的で私の人生を彩る、かけがえのない経験となりました。

井畑 和真 さん ● 4回生 ● 交換留学

ひと味違ったフランス体験

私はフランスのリール政治学院に1年間留学しました。リールは、フランス北部、ベルギーに程近い、交通の要所として栄えてきた街です。リール政治学院では、政治学を中心に、経済学、国際学などを勉強することができます。県大よりも小さく、こじんまりとしているため、ヨーロッパ、アフリカ、南米など世界中から集まった留学生やフランス人学生と、濃密な時間を過ごすことができます。
フランスでは、ストライキやデモ運動を通して、人々は意見を表明し、改革を求めたりします。これらに実際に参加してみて、色々と考え機会を得ることができました。また、フランスでは、日本文化への興味が高まってきています。日本料理店を始めとし、漫画書店や日本語勉強会などをあちこちで見つけることができます。私も、日本文化や日本語に興味がある人たちとの勉強会に参加しました。フランスといえは、パリのようなイメージがありますが、リールでは、オランダやベルギーの影響を受けた食べ物や建物など、少しユニークなフランスを体験することができました。

堤 将太 さん ● 4回生 ● 交換留学



協定校等の具体的な留学先

リーズ大学 派
／ヨーク・セントジョン大学(イギリス)

リール政治学院(フランス)
オルレアン大学(フランス)

アウクスブルク大学
(ドイツ)

ベルージャ外国人大学
(イタリア)

セヴィリヤ大学
(スペイン)



モンゴル国立大学
(モンゴル)

内モンゴル民族大学
(中国)

青海民族大学(中国)

光云大学(韓国)

江原大学(韓国)

中興大学(台湾)

海南大学(中国)

サンカルロス大学
(フィリピン)

湖南師範大学
湖南農業大学
中南大学(中国)



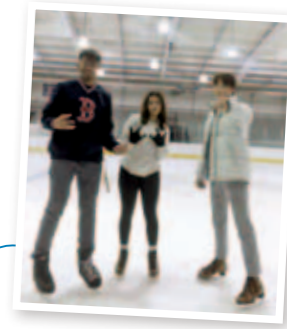
MONGOLIA

遊牧民「ツァータン」に憧れて

私の留学先はモンゴル国立大学です。モンゴルと聞くと、広大な草原や遊牧民の暮らしを想像されると思います。しかし、意外にも都市のあるウランバートルは都会で、コンビニや大きなショッピングセンターもあります。とはいえ、私はモンゴル最北の森林地帯でトナカイを飼いながら遊牧生活をする「ツァータン」と呼ばれる人たちの写真に一目ぼれし、モンゴルにやってきました。留学を開始した当初はモンゴル語ができませんでした。ツァータンに会いたい一心で、日々勉強に励みました。冬休みに、私は友達と一緒に17日間の西モンゴル周遊の旅を決行しました。その際に、つたないモンゴル語ではありますが、ツァータンの方々とお話しすることができ、トナカイとともに過ごすこともできました。-40度にもなる夜には、オルツと呼ばれるテントのようなものの中で凍えながら寝て、トナカイの肉やミルクを味わいました。うっとりするような、幸せな思い出です。新しいことを始めるときに不安はつきものです。しかし、自分の直感を信じて努力すれば想像していたよりも何倍も素敵な体験ができます。

山本 明季 さん ● 3回生 ● 交換留学

留学は他国の言語や文化を学ぶことができるだけでなく、自分や自国の文化としっかり向き合える貴重な機会を提供してくれます。そのため国際コミュニケーション学科では2回生の後期から留学することを推奨しています。期間は長期留学(9~12ヵ月)・中期留学(3~6ヵ月)・短期語学研修(3~8週間)があり、英語圏だけでなく、ドイツ、フランス、中国、韓国、モンゴルなど履修した外国語科目に合わせて留学先を選ぶことができます。また協定校以外への認定留学制度もありますので、ぜひ自分に適した留学先を見つけて異文化を体験してみてください。



派遣留学

ミシガン州立大学連合(15校)

- ・セントラルミシガン大学
- ・イースタンミシガン大学
- ・フェリス州立大学
- ・グランブルー州立大学
- ・レイクスペリオル州立大学
- ・ミシガン州立大学
- ・ミシガン工科大学
- ・ノーザンミシガン大学
- ・オークランド大学
- ・サギノーブルー州立大学
- ・ミシガン大学アナーバー校
- ・ミシガン大学ディアボーン校
- ・ミシガン大学フリンツ校
- ・ウェイン州立大学
- ・ウェスタンミシガン大学

ランシング・コミュニティカレッジ 派
ミシガン州立大学連合(15校) 派
ミシガン州アルマカレッジ 派
ミッドミシガンコミュニティカレッジ
(アメリカ合衆国)

ビクトリア大学 派
(カナダ)

ワシントン州
スカジットバレーカレッジ 派
オリンピックカレッジ 派
エベレットコミュニティカレッジ 派
(アメリカ合衆国)

ポートランド州立大学 派
(アメリカ合衆国)

テキサス州
ヒューストン大学
ヴィクトリア校
(アメリカ合衆国)

ミズーリ州
コロンビアカレッジ
(アメリカ合衆国)

アラバマ州
オーバーン大学
モンゴメリー校
(アメリカ合衆国)

カリフォルニア
マウントセントメリーズ大学
(アメリカ合衆国)

シドニー工科大学
(オーストラリア)

オークランド大学 派
(ニュージーランド)



TAIWAN

自ら動き、挑戦する

私は台湾の台中市にある中興大学に1年間留学しました。台中市は台湾のちょうど真ん中あたりに位置しており、気温や都市の発展具合もすべて真ん中くらいの地域です。台湾に着いたばかりの頃は、中国語文法の知識があるものの、全く喋れない状態でした。中国語の授業では先生が常に中国語を話すので、最初は聞きとれず、友達に何度も助けられました。台湾に来てからはとにかくチャンスを自ら探そう、と考えながら行動していました。質問があれば、質問し、行きたい場所があれば、予定を立てて、受け身の姿勢を取らないように心がけていました。結果的に、多くのクラブ活動やボランティアに参加することができました。一人で台湾一周の旅にも出ました。今となってはよい思い出です。多くの留学生には同じ国から来た友達にいたのですが、私にはそのような形で頼れる存在はいませんでした。当初はつらく感じたのですが、その状況が自分を成長させてくれたのだと思います。自ら挑戦し、学び、物事を解決する姿勢が身につきました。

野村 多香美 さん ● 3回生 ● 交換留学

教科書では学べないこと

私はアメリカ合衆国ミシガン州のデトロイト国際空港から自動車で約20分の距離に位置する東ミシガン大学に2学期間留学しました。日本人に会うことがほとんどない環境に身を置くことで英語力が伸びただけでなく、自分で行動して人の輪を広げる力をつけることができたと思います。大学の講義はもちろんすべて英語で行われますが、「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」ということを意識して講義を受けました。なかでも、人種・民族に関する講義では、実際に様々な背景を持った学生と議論をして考えを深めることができました。また、大学の日本語学科のチューターとして現地の学生に毎週日本語を教えるという経験をすることもできました。休日は友人とバスケットボールの試合(NBA)を観に行ったり、旅行に行ったりしたこともよい思い出です。多文化社会アメリカでの生活は毎日が刺激的で、自分自身や日本について考えるきっかけにもなりました。振り返れば辛いこともありましたが、実際にたくさんの人と出会い、色々なことを経験することは自分自身を成長させることにつながりました。

小西 温 さん ● 4回生 ● 交換留学

自分自身で作る留学生活

私はシドニー工科大学に半年間留学していました。大学はシドニーの主要駅の一つであるセントラル駅から徒歩数分のとても便利な場所に位置しています。街はとても栄えていて、休日にはマーケットやビーチに行ったりスポーツ観戦をしたりなど、日本では味わえない生活を満喫しました。シドニーを選んだのは自分次第でさまざまなことを経験できることです。大学には180を超えるサークルや団体があり、自分の好きなこと、興味のあることに挑戦できます。私の場合、バレーボールの経験が私の留学を大きく変えてくれました。私は大学で行われていた週2回のセッションに参加し、そこで現地の学生と一緒に活動することで英語面においてもたくさんの刺激を受けました。また、友達が地元の大大会に誘ってくれて、その大会で優勝するなどすごく貴重な経験ができました。このような経験の中で留学生としてではなく一人の大学生や友人として、他の学生と関わっていけることは自分自身の自信につながりました。

武智 小夏 さん ● 3回生 ● 交換留学

学び合いの大切さ

私が留学した江原大学は、ソウルの北東に位置する春川市にあります。春川には3つの湖があり、街並みも穏やかなため、滋賀県と少し似ている気がします。キャンパスの敷地面積は韓国で最も大きく、リスも見られるくらい自然豊かで、のびのびとした大学です。
韓国に来た当初は韓国語が理解できず、10ヶ月も生活できるのか不安でいっぱいでした。しかし、私が所属していた日本学科では行事が多く、韓国人の学生と交流する機会が多かったため、韓国語を沢山聞いて話しているうちに苦手意識は無くなりました。私が韓国語を積極的に話すようになったきっかけは、日本学科の学生達です。彼らは私に日本語で伝えようとし、使い方が合っているのかを尋ねてきました。授業で習った日本語を試そうとする姿を見て、完璧にできなくて当然であり、使ってみることが重要なことを実感しました。積極的に話すようになったことで友達ともより親しくなり、一歩踏み込んだ話などできるようになりました。せっかくの限られた留学生活なら、積極的に行動することを強くおすすめします!

福田 涼葉 さん ● 3回生 ● 交換留学